

第3回山城地域振興計画推進懇話会 主な意見(抜粋)

- 今回の改定された山城地域振興計画については、「連携」をキーワードに計画を実施することが大切である。
- 関係団体との情報共有や、交通インフラ整備で生まれる物流・人流によるけいはんな学研都市の大学・研究機関なども含めた連携によって、山城地域の更なる発展を期待している。
- 市町村も地域振興計画に基づく事業主体となるため、振興局が市町村をうまくサポートしていただきたい。
- 現在、南部地域のインフラ整備が進み、けいはんな学研都市のみならずその他の市町村も新しい産業基盤整備や企業誘致等に力を入れようとしているため、国の施策を積極的に活用できるような形での支援など、連携とともに、振興局として、市町村の意向を踏まえながら、支援していくことが山城地域の更なる発展につながる。
- 農業の振興に関して、後継者の育成が重要であり、今後の農業の発展の基盤をすることで、後継者たちが続けていける魅力ある産業としていくことが重要である。
- 宇治茶の世界文化遺産登録の推進に関する部分について、文化財は保存と活用をセットで考えるべき時代となっているため、保全だけではなく、活用ということも含んだ記載とするべきである。宇治茶が文化遺産となったことで保存のみならず、更に地域づくりに生かすことができるということを表現すべきである。
- 京都府の総合計画や地域振興計画も多言語版や子ども向け、高齢者向けといったように、より幅広い方々へ発信することで、住民の理解も進み、地域の発展につながる。
- 近年、消防団員やボランティア、民生委員、福祉委員などのなり手が若い世代を中心に少なくなってきたが、今回数値目標として防災士の資格取得者を増やすということが計画に盛り込まれているため、女性を含めた多くの方が防災リーダーの資格を取得し、安心して暮らせる地域となっていくよう取り組んでいただきたい。
- 山城地域の産業においては、大学や研究機関、ものづくり企業が多く存在するとともに、農林業や観光業も盛んであり、それらの連携が重要である。そのような多分野の連携によって新たなイノベーションが生まれていくため、そのような連携の支援についても振興局に取り組んでいただきたい。
- 待機児童について数値目標は削除されるとのことだが、向日市ではマンション開発が進んでおり、少子化とはいえども、やはり保育園に関しては数を確保することと保育の質の確保が重要である。

○山城地域振興計画の「安心して子育てできる環境づくり」の部分で、「豊かな心、豊かな身体、高い学力をバランスよく育むために教育の質を高めていくことが重要です」という記載があるが、今は非認知能力が大切だといわれる時代のため、非認知能力についても記載するべきである。